

## オーロラ観光

躍動するオーロラが全天を乱舞し漆黒の闇にトナカイの角が前景に浮かび上がる。厳寒の針葉樹林中を疾走する犬ゾリに乗つてオーロラを眺める究極のツアーハは北緯六十四度、アラスカ、フェアバンクスへの旅がよい。北極を鉢巻きのように取り巻くオーロラベルトの下にあるこの地方はオーロラ観光には持つてこいの所である。真冬の太陽は地平線を這うように淡い陽ざしで針葉樹林を照らし、つかの間の残映を残しながら沈む。一月の平均気温は二十四・九°C。オーロラの乱れ舞う夜の空を見上げるのは、四十°Cくらいの厳しい寒さは覚悟して貰いたい。

時にはカーテン状にひらひらと天女の衣のようになくから舞い降り、襞をピンク色に染めて走る。幸運にも全天を放射状に乱舞し降り注ぐコロナ状のオーロラを見る事もできるかもしれない。夕暮れの残照のなかにカーテン状のオーロラを重ねてみることも出来る。遠く水平線の上には燃えるような朱色の帶

が横たわり動きを止めて、動と静の姿が眺められることもある。

オーロラは太陽から吹き出される太陽風に乗つて電気を帶びた粒が、地球の磁石に飛び込んで来たときに放電する光の帶で、ネオンサインの原理に近い。頭のすぐ上のように見えるオーロラだが実のところ、上空百キロメートルのところで輝いている。

オーロラ発電機の電力は日本や米国の全発電量に匹敵するほどの膨大さで、百キロメートルという高い空から種々の悪さをしている。アラスカの石油パイプラインに誘導電流を誘発して腐食を生じ、送電高圧線を停電させ、石油の磁気探索を妨害してしまった意外に厄介なものともおなる。美しいオーロラにも棘ありだが一度見たら病みつきとなる不思議な魅力を秘めている。

（気象庁 村松 照男）